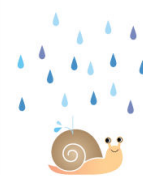




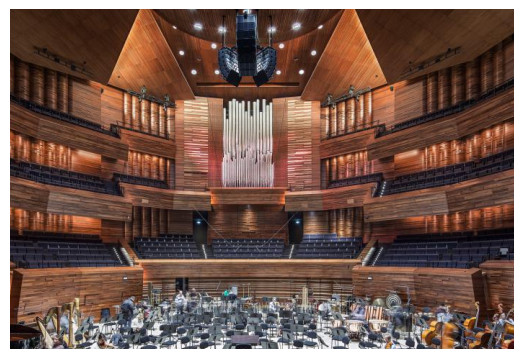
Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE



梅雨の到来ですね。雨は苦手ですが、素敵な傘と雨靴があれば少しは楽しく乗り切れるのではと思うこの頃です。傘に撥ねる雨の音もなかなかリズムカルで楽しいですね。さて、最近の所沢ミュージズのラインナップを見ていたら、なんとヴァイオリンの庄司紗矢香さんのお顔を発見！私が高校生のとき、同い年の彼女が、名門パグーニ国際コンクールに最年少で優勝したニュースを聞き、その深い音色に衝撃を受けました。その時からずっと憧れの音楽家。しかも名匠ゲルギエフの指揮となれば12月が待ち遠しいです！

🍏6月30日(金)は500円オルガンコンサート🍏

今回の500円オルガンコンサートは、私・梅干野安未が出演します。以前オルガン通信 Vol.52 『パリ・オルガンぶらり旅』でもご紹介した「ラジオ・フランス」。皆様がこのオルガン通信を手にとって下さる頃には無事に終わっていると思いますが、つい先日6月12日に、その「ラジオ・フランス」のホールに新設されたオルガンで演奏をしてみました！その様子は次回の通信でたっぷりとお伝えします♪今回の500円コンサートでは、コンサートで演奏した作品をはじめ、パリの薫り漂うラインナップを中心にお届けしたいと思います。



第1回目 11時開演 (未就学児、0歳児から入場可能)

J.S.バッハ：トッカータとフーガニ短調 BWV565 ◀誰もが知っているオルガンの名曲！
W.A.モーツァルト：きらきら星変奏曲 ◀ピアノのための名曲がオルガンで大変身♪
C.サン＝サーンス：「動物の謝肉祭」より ◀ゾウ、水族館、化石といった耳馴染みのメロディを！
みんなで歌おう「大きな栗の木のしたで」 ◀手遊びしながらみんなで歌おう♪ ほか



第2回目 14時30分開演 (未就学児入場不可の大人のためのプログラム)

J.S.バッハ：協奏曲イ短調 BWV593 ◀ヴィヴァルディの協奏曲集「調和の靈感」の一曲を、バッハがオルガンに編曲！
Ch.トゥルヌミール：「めでたし海の星」による幻想即興曲 ◀滅多に聴くことのできない神秘的な作品♪
V.オーベルタン：「星のためのソナチネ」 ◀オルガンからこんな音がするの?!と思わず耳を疑うような響き。
J.アラン：リタニ (連禱) ◀前回ご好評頂いたアランの代表傑作。身体を揺さぶられるような衝撃。 ほか

🍏7月1日(土)オルガン講座第1回目開催🍏



その翌日、7月1日(土)には今年度第一回目のオルガン特別講座が開催されます。ミュージズの大ホールのオルガンを目の前に、「オルガンの歴史や音の出るしくみ」や「音色のさまざま」を学びます。講師の松居直美先生によるお話は毎回奥が深く、世界史や宗教学もふまえた多角的なアプローチとオルガンとの関わりについて、とても勉強になりますよ！後半は客席で実際にパイプの種類や音色の組み合わせなどを聴きながら、耳でも楽しめる講座です。はじまると止まらない質問コーナーもお楽しみに！

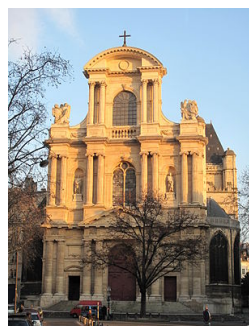
🍏パリ・オルガンぶらり旅🍏パリといえばマレ地区！超名門一族のオルガン🍏



現在のパリは、大部分が19世紀オスマンのパリ大改造計画による放射状の大通りによって整備されていますが、その計画を間逃れた地区がいくつか存在します。パリ中心部3区と4区にまたがるマレ地区はその代表的な界隈で、17世紀の貴族の館が残る歴史的地区です。道がくねくねと蛇行していて、古い建物に目を奪われながら石畳の道を歩いているといつの間にか迷ってしまうほど、迷路のように趣のある小道が入り組んでいます。美術館も立ち並び、アート好きにもたまらないでしょう！ピカソ美術館やカルナヴァレ美術館、パリ最古の広場であるヴォージュ広場など見所も尽きません。ユダヤ人も多いためシナゴーク（ユダヤ教の礼拝堂）も点在し異国情緒を感じますし、日曜日営業のカフェも多いのでいつでもお洒落なパリジャン達で賑わっています。ファッション業界でも常に最先端を担う、パリの魅力が凝縮された界隈なのです。



サン・ジェルヴェ教会とクーブラン一族



マレ地区の中心、賑やかなパリ市庁舎の裏にひっそりと佇む、赤い扉の教会があります。それが、今回ご紹介するサン・ジェルヴェ教会 *L'église Saint-Gervais* です。第一次大戦でのドイツ軍の砲弾によって大きな被害をうけ、外壁には黒く焼けこげた跡が残るものの、見事に修復されています。エルサレム修道会の修道士や修道女たちが住む修道院が隣接しており、礼拝堂では常に祈りが捧げられているので、いつでも穏やかな祈りに満ちた空気が流れているのが印象的。そしてなんといっても、この教会のオルガンは、フランス古典期（バロック時代）を代表する作曲家一族クーブラン家が代々オルガニストを務めていた事でも有名です。なかでも、大クーブランと称されるフランソワ・クーブランは1685年から1723年までこのオルガンのオルガニストを務めると同時に、ヴェルサイユ宮殿内の王宮礼拝堂オルガニストも兼任し、王宮付き音楽家としてその名を轟かせていました。洗練された2つのミサ曲は、この美しいオルガンから紡ぎだされたのです。

オルガンINFO

5段鍵盤、41ストップを持つ大規模なフランス古典期の楽器。これはオルガン製作の名門一族クリコが1768年に完成させた代表作の一つです。右下の写真はその当時18世紀の演奏台。ペダル鍵盤も見慣れているものより短い、典型的なフランス型ペダルなのが見えますね。1974年に改修がなされ、このペダル鍵盤はドイツ式に変更されましたが、今でも、ゴツゴツとした手鍵盤とレジスター（両脇に付いているストップ）が現存しています。一度こちらの教会で演奏会をさせて頂きましたが、クーブラン一族の触れていたそのままの鍵盤にゾクゾクとしながら触り、感激しながら音色を味わったのを覚えています。250年の歴史を感じさせるのは、鍵盤が少しすり減って何とも言えぬデコボコ加減になっていること！3段の鍵盤を連結すると、もの凄く鍵盤が重く、ガシャガシャとけたたましい音をさせて、豪快に演奏するのです。やはりオルガンは男性が演奏するものだな～なんて思いながら…。この教会に訪れる際には礼拝堂のオルガンを聴いた後、ぜひぐるりと教会の外観を一周してみてくださいね。教会の正面と裏面、異なる建築様式が楽しめますよ♪

